

生駒市制50周年記念誌



IKOMA CITY
50th Anniversary Book

生駒市制50周年記念誌



IKOMA CITY
50th Anniversary Book



編集発行：生駒市役所 市長公室 秘書課 市制50周年事業室
奈良県生駒市東新町8-38 (TEL:0743-74-1111)

発行日：令和3年11月7日



生駒市長
小紫 雅史

1971（昭和46）年11月1日に誕生した生駒市は、本年、市制50周年を迎えます。

この50年間で人口が約3.2倍に増加し、住宅都市として大きな発展を遂げてきました。これからも生駒市に住み続けたいという「定住意向」は、88.9%（令和2年度生駒市市民満足度調査）という高さを誇ります。このような素晴らしいまちを築いてこられたすべての市民、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

同時に、市制50周年は、次の50年の発展をしっかりと考えるべき節目でもあります。住宅都市としてのまちづくりに加え、市民や事業者の皆様が、行政や専門家などと力を合わせ、「働きたい」「住みたい」「暮らしたい」まちを自分たちで創る。本市のビジョンである「自分らしく輝けるステージ・生駒」を実現していきましょう。

豊かな自然、伝統、文化、歴史と、最先端技術がつながる生駒市ですが、その最大の宝は「ひと」。住んでいる地域、世代、性別や国籍、疾病や障がいの有無などの違いを超え、しなやかな多様性と激動の未来を楽しく切り拓く強靭さを兼ね備えたまちを創っていかうではありませんか。

皆様とともに、生駒市の未来を創っていけることに感謝しつつ、なお一層のお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。



生駒市議会議員
中谷 尚敬

生駒市制50周年、誠におめでとうございます。

この大きな節目の年を、市民の皆様と共にお祝いできることを大変喜ばしく思います。

本市は、1971（昭和46）年の高度経済成長のさなかに誕生し、昭和から平成、令和へと時代が変わる中、都市基盤の充実を図るとともに、豊かな自然と文化、歴史などが調和したすばらしい住宅都市として発展してきました。

今日までの市政発展は、市民の皆様と関係各位のご理解とご尽力の賜物と、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

市議会といたしましても、これまでの50年に思いを新たにするとともに、変化し続ける時代の課題に対し、今後も不断の議論を積み重ね、市民の皆様への信頼と負託に応えるため、議員一同、全精力を傾けて取り組んでまいります。

結びに、市制50周年を契機に、生駒市の更なる発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



生 駒 市 制 50 周 年 記 念 誌

P.3 座 談 会 「いこまの今、未来。」

P.7 市制50周年に寄せて
市民からのおめでとう！

P.9 生駒市制50年のあゆみ

P.14 統計から見た生駒

P.15 50年後に向けた 将来ビジョン

P.17 著名人からのお祝い

P.21 市制50周年記念ロゴマーク

P.22 市章・市民憲章・市の花・
市の木・たけまるくん



いこまの
今、未来。

地域での過ごし方が大きく変わる昨今。これからの生駒市ではどんな暮らし方、働き方ができるのでしょうか。すでに多様な暮らし方、働き方を実践している皆さんにお話を伺いました。



小紫雅史市長（以下、「小紫」）：本日はご参加いただき、ありがとうございます。はじめに皆さんが生駒市にお越しになったきっかけや、現在の活動について教えてください。

高橋祐子さん（以下、「高橋」）：生駒市出身で、東京に8年住んでいました。いつか緑の多いところで子育てをしたいと思っていたので、3年前に夫に単身赴任してもらい、生駒市に帰ってきました。現在はnijihiro*cafeを経営しています。

谷村圭一郎さん（以下、「谷村」）：高山の茶釜師の家に生まれました。大学進学・就職で市外に出ましたが、代々茶釜づくりをしている祖父や父のことを思い、また自身の役割を考えて、2年前に帰ってきました。自分自身が生駒市のためにできることは微力ですが、数少ない茶釜師の一人としてできることがたくさんあると思っています。

犬伏実穂さん（以下、「犬伏」）：結婚して生駒市に引っ越してきました。生駒駅に降り立ったとき、駅前に図書館があり、いいまちだと思い、そのまま家を決めました。仕事のキャリアで悩んでいたときに、いこまち宣伝部※の募集を知り、「この活動にはいいことがある気がする」と感じて応募し、活動を続けています。

田村康一郎さん（以下、「田村」）：東京に住んでいましたが、子育てのため、妻の実家がある生駒市に引っ越してきました。現在も東京の会社に勤めていますが、二拠点生活をする社員がいてもいいと言ってもらい、東京と生駒市の両方で生活を始めました。生駒市には知り合いがいまありませんでしたが、様々なきっかけで面白い方々とのつながりができて、一緒に活動をしています。公園にいこえん※の活動をして2年近く経ち、離れがたいまちになりました。

※いこまち宣伝部…市民自らまちの魅力を発信する広報チーム。

※公園にいこえん…近所の公園での時間をもっと楽しくするために、集まる日時を決めて子どものやりたいことに向き合う取組。

暮らしてわかった
生駒の魅力

小紫：犬伏さん、いこまち宣伝部の活動や日々の生活の中で気づいた生駒市の魅力はありますか。

犬伏：自分がどうしたいという意思を持っていて、それをはっきり言ってくれる人が多いです。宣伝部の取材先も良い人ばかりで、勉強になっています。

小紫：多くの人がまちづくりを自分事とらえているので、周りの人に「まちでこんなことやりたい!」と話してもスルーされない安心感がありますね。これは「自分らしく輝けるステージ」になるために必要なことだと思います。反対に、市外に出て分かることもあると思いますが、生駒市出身の二人が感じる生駒市の魅力や帰ってきた決め手は何ですか。

谷村：私の地元は生駒市というより高山という意識があります。高山は何もなくて、田舎にコンプレックスがあり、アメリカの大学、県外の企業を選んできました。しかし、高山でしかできない茶釜師という家業があり、廃らせるのも、盛り上げるのも自分次第で、茶釜師の家に生まれた自分の役割を意識するようになり、帰ってくることを決めました。



高山で茶釜づくりを受け継ぐ谷村さん



市内でカフェを経営する高橋さん

高橋：私も子どものときは、生駒市に対する思いは特にありませんでした。東京に住んでいたころ、たまたま大阪の映画館で、生駒市の広告を見たことがきっかけで「生駒市って素敵な場所だったんだな」「生駒市のことが知りたい」と思いました。夫と子育てをする場所について話し合うときも、生駒市の話ばかりしていました。子どもたちのことを考え、改めて地元に戻り、お店をはじめました。

小紫：子育て世代になった30代の生駒市出身者が、生駒市の魅力に改めて気づいて戻ってきてくださるのは、うれしいですね。田村さんも、移住直後から積極的にまちに関わっておられます。きっかけを教えてください。

田村：まずIKOMAサマーセミナー※の講師に応募しました。自分の経験を活かしたい、まちと接点を持ちたいと思っていたことが理由です。妻も宣伝部に入り、そこで関わった人たちと私も知り合いになり、いこえんの活動につながりました。人口12万人という規模もちょうどよくて、活躍している人の顔が見えやすく、かといって出る杭は打たれるような雰囲気ありません。市職員にも応援してくれる人がいて、仕事だから関わるのではなく、純粋に楽しんでいて良いなと思います。

※IKOMA サマーセミナー…「だれでも先生」「だれでも生徒」を合言葉に、趣味や特技を持った市民の皆さんが1日限りの先生になって楽しい学びの機会を提供し合うイベント。

Members

● 小紫 雅史市長

生駒市長。47歳。将来都市像の実現に向け、協創によるまちづくりを進める。子育てにも奮闘中の4児の父。

● 高橋 祐子さん

生駒市出身。37歳。元養護教諭。子育てをきっかけに東京都からUターン。地域の保健室を目指し、地域に根差したカフェnijihiro*cafeを経営。

● 谷村 圭一郎さん

生駒市出身。35歳。茶釜師の家系である翠華園谷村弥三郎商店に生まれる。大学進学、就職で生駒市を離れたが、家業を継ぐためUターン。

● 犬伏 実穂さん

愛知県出身。30歳。結婚を機に生駒市に移住。民間企業で研究員として働きながら、いこまち宣伝部で活動。現在は様々な地域活動に参加している。

● 田村 康一郎さん

宮崎県出身。36歳。東京の企業に所属しながら家族と生駒市に住み、東京との二拠点生活。生駒市で地域活動にも積極的に参加し、二拠点生活を楽しむ。

多様なライフスタイルを サポートできるまちへ



小紫：生活スタイルも多様になってきていますよね。犬伏さんが活動を始めたきっかけはなんですか。

犬伏：仕事をするなかで、組織の一人としての仕事はできていても、自分一人では何もできないと感じることがありました。仕事も好きだけど、自分ができることを増やしたいと思いました。実際に宣伝部や様々な活動に携わり、仕事、宣伝部、家庭…自分の生活に納得しています。宣伝部をするからには仕事もちゃんとしたいという目標を持つことができました。

小紫：生駒市は会社勤めの人が多いので、犬伏さんのように、仕事と地域活動をうまくつなげたライフスタイルは良いモデルになると思います。この点について、谷村さんはどうお考えですか。

谷村：今、日本では、海外製品が高山茶釜の3分の1の価格で流通しているので、海外製との違いや付加価値を伝えることが重要だと思っています。以前、ららら♪マルシェ※に出店したとき、生駒市民でも高山茶釜を知らない人が多く、ショックを受けました。そこで、ブランディングが必要だと思い、市松模様やストライプの編み糸やチャームをつけた茶釜を提案し、同時に茶釜で作るドレッシングやスイーツなどのアレンジレシピを『カプチャーノ』と称して紹介するなど、抜本的に茶釜のあり方を変えるという思いで様々な工夫をしています。また、妻と友人が茶釜を題材に絵本を作ったので、学校の授業でも使ってもらい、高山茶釜の魅力を知り、身近に感じてもらいたいと考えています。生駒市の子供たちが将来、海外に出たときに、自分のふるさとは茶釜があると伝えられるようになってほしいです。

※ららら♪マルシェ…グリーンヒルいこま主催のマルシェ。市内各地から店舗が出店する。

小紫：高橋さんは、食や子育て、さまざまな切り口からカフェを経営され、子どもの居場所づくりにも取り組んでおられます。自らの専門性をどのように活かしておられますか。

高橋：私は保健室の先生をしていました。保健室の先生は、子どもたちがしんどくなる前に、学校や家庭など、その子の周りの人たちと一緒にサポートします。つらい思いをしている人に対して地域ができることがたくさんあると知りました。お店を開くとき、地域のつながりを持てる場所にしたいという思いがあり、地域の多世代の人にスタッフとして入ってもらうことで、客層の幅も広がり安心して来店してもらえるのでは、と考えました。赤ちゃんをだっこしながら食事をしている人がいたら、隣の席の人が面倒見てくれるような雰囲気も生まれました。これまで地域で支えられる側だった人が、逆に支えてくれる側になっていたり、地域に良い変化が生まれていると思います。

小紫：支援する人される人を固定しない高橋さんの取り組みは、SDGsのまちづくりの基本で、素敵だと思います。田村さんは、これからの生駒市について、どのようにお考えですか。

田村：いこえんの活動も継続していくうちに多世代化してきました。自治会では複合型コミュニティ※、学校ではコミュニティスクール※が同時進行的に始まっています。それぞれの活動の中で、普段出会えないような年齢層とつながりを持つことができました。高齢者にとっては子どもとの触れ合いに新しい発見があったり、子どもは地域の中でも子どもらしく過ごせるようになったり、地域の中で良い循環が生まれています。そのような経験を活かして、子どもたちが50年後の生駒市でどんな活躍をしてくれるか、楽しみにしています。

※複合型コミュニティ…地域住民、企業、市民団体などが地域内で役割を持ち、地域に参画することで、地域に必要なあらゆる活動が自律的に生まれる主体間のつながり。

※コミュニティスクール…学校運営協議会を設置した学校。「学校運営協議会」とは、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映し、地域とともにある学校づくりを実現するための仕組み。

これからの生駒に期待すること

小紫：犬伏さんは活動をする中で生駒市の課題を感じることはありますか。

犬伏：地域活動を始められる入口がたくさんあるといいなと思います。ターゲットを絞って募集している活動が多くありますが、ターゲット層以外でも、その活動に混ざりたいと思っている人もいます。いろんな人が交じり合える場所ができたらなと感じています。

小紫：市の事業も目的を明確にし、大きな効果を上げるため、ターゲットを絞ることが大切なことも事実です。一方で、世代や障がいの有無などを越えてつながり、良い意味でごちゃまぜに、互いにサポートし合い、まちを楽しんでもらうという視点も引き続き大切にしていきます。

田村：いこえんなどの特定の世代から始まった集まりや取り組みを知ることで、世代が異なる人も地域活動に関心を持つきっかけになると思います。世代が異なるという観点で言うと、今年、例年準備してくださる自治会の役員の皆さんは高齢の人が多く、祭りが中止になりました。そこで、いこえんで集まっている子どもたちを中心に、小さなお祭りをしようと動いています。子どもたちの新しい挑戦がとても楽しみです。



地域活動で公私が充実している犬伏さん



生駒と東京の二拠点生活をしている田村さん

小紫：自治会という「地域」活動と花・緑や子育てなどの「テーマ」活動がつながるとより良いまちづくりになりますね。市民の目が地域に向いたり、デジタル化が進むなど、コロナ禍は新たな地域づくりのチャンスにもなります。

田村：地域の公共空間を、楽しく使うだけではなく、実践・研究などで使ってもいいと思います。高橋さんが「まちの保健室をつくる」と志してnijihiro*cafeを作られたように、想いを実現することがまちの課題解決になるというのは、私も目指していきたい姿です。

小紫：生駒市は定住意向が88.9%と、全国的に見ても非常に高いです。住んでいる人がハッピーになり、それが新しい市民や事業者の転入にもつながるといいですね。

本日はありがとうございました。今後も皆さんの活動のさらなる発展を期待しています。行政としては、地域活動を始めるきっかけをつくるとともに、市民の皆さんがまちを楽しめるようにサポートしていきます。





市制50周年に寄せて
市民からのおめでとう！

- 50周年お祝いメッセージ
- 生駒の好きなところ
- ミライの生駒市民へ

人が優しい、笑顔がいっぱい、そんな
生駒で音楽が続けられて幸せです。
50周年おめでとうございます！



向こう三軒両隣声をかけあう
明るい市となれ！！



これからも子ども達を大切に、
お年寄りに優しく、働き世代に
過ごしやすい市を目指してください。



生駒に住んで75年。
大阪から生駒へ来ました。
生駒山を毎日眺めて暮らしてきました。
大変住みやすい町です。



生駒市君
「50歳」おめでとう！
山あり谷ありの素晴らしい人生
です。これからも共に成長しよう。



昔、生駒村だったころから住んでいます。
山の緑も豊かだが家は少なかった。
少しずつ家も増え、まちが豊かになった。
全国でも生駒市が有名になり、
市民として自慢です。



街が元気で活発！
スポーツをできる場所が
たくさんあり、高齢者の方も
若者も元気です！



「街に溢れる心産業」
「生駒山麓公園から見下ろす絶景」
「美味しいパン屋さん激戦区」
が好きなところ！



青春時代と子育て時代を
生駒で過ごしました。
生駒の古の産業で16年勤めてます。
祝 50周年！乾杯！！



こうえんであそぶのが好きです。
ふれあいセンターも好きです。



みんなで楽しいまちにしよう！



自然がたくさんで
のびのび遊べる
生駒が大好きです！！



公園が多くて子育てしやすいです！
そして、とても人があたたかく、
困っていたら皆様すぐに助けて
くれるので、とても感動しました！



自然がいっぱいで
子育てしやすく、交通も便利で
住みやすいところが
とても好きです♪



自然豊かで、帰ってくると
ホッとするまちの温かさが好き！

生駒市制 50 年のあゆみ

昭和46年

1971

- ◆ 初代市長に平本留吉氏就任
- ◆ 市制施行
- ◆ 市営火葬場運転開始
- ◆ 滝寺公園プール
(現在は生駒市体育協会滝寺SCプール)開設
- ◆ 小平尾保育園開園
- ◆ 生駒台幼稚園開園
- ◆ 生駒東小学校開校
- ◆ 中保育園開園
- ◆ 県立北大和高等学校(現在は奈良北高等学校)開校
- ◆ 南幼稚園開園
- ◆ 2代目市長に前川具治氏就任
- ◆ 消防署北分署開設
- ◆ 市民体育館(現在は生駒市体育協会滝寺SC体育館)開設
- ◆ 人口5万人を超える
- ◆ 小平尾南児童館開設
- ◆ 真弓小学校開校
- ◆ 生駒幼稚園開園
- ◆ 市民憲章制定(2001年改定)
- ◆ 俵口幼稚園開園
- ◆ 緑ヶ丘中学校開校
- ◆ 俵口小学校開校
- ◆ 市民憲章制定(2001年改定)
- ◆ 鹿ノ台小学校開校
- ◆ あすか幼稚園開園
- ◆ 近鉄生駒線萩の台駅設置

1971年11月1日 | 市制施行



「生駒町」は県下9番目の市として「生駒市」に。市制施行当時の人口は37,439人。

1972年 | 生駒駅前商店街の様子



1979年 | ラッシュの生駒駅



1984年 | 第39回国民体育大会わかさ国体



奈良県で国体が開催され、生駒市では、ハンドボール競技会を開催。大会に伴い、昭和天皇が行幸され、ハンドボール競技会にご臨席されました。

昭和56年

1981

- ◆ 生駒メディカルセンター設立
- ◆ イモ山公園プール開設
- ◆ 桜ヶ丘小学校・あすか野小学校・鹿ノ台中学校開校
- ◆ 中央公民館(現在はたけまるホール)新築移転
- ◆ 市役所が現在の庁舎に新築移転
- ◆ 休日夜間応急診療所開設
- ◆ 学校給食センター(小町町)開設
- ◆ 吉分小学校・上中学校開校
- ◆ 桜ヶ丘幼稚園開園
- ◆ 生駒南第二小学校・光明中学校開校
- ◆ 人口8万人を超える
- ◆ 生駒南第二幼稚園開園
- ◆ 生駒駅前南口地区市街地再開発事業(グリーンヒルいこま)竣工
- ◆ 新消防本部・消防署庁舎新築移転
- ◆ 総合公園体育館・グラウンド(現在は生駒市体育協会総合SC体育館グラウンド)開設
- ◆ 大瀬中学校開校
- ◆ 第39回国民体育大会わかさ国体開催
- ◆ 第1回ふるさとふれあいまつり開催
- ◆ 生駒市水道事業事務所開設
- ◆ 図書会館開設(図書館は87年開設)
- ◆ 近鉄東大阪線(現在は近鉄けいはんな線)開業
- ◆ 小平尾南体育館・少年グラウンド開設
- ◆ 近鉄東大阪線新生駒トンネル貫通
- ◆ 生駒商工会議所設立
- ◆ 武道館(現在は生駒市体育協会滝寺SC武道館)開設
- ◆ 北大和野球場・グラウンド開設
- ◆ 高山竹林園開園
- ◆ 奈良県吉野郡上北山村・兵庫県城崎郡竹野町(現・豊岡市。現在は解消)と友好都市提携
- ◆ コミュニティセンター(生駒セイセイビル)開設
- ◆ 人口10万人を超える
- ◆ 福祉センター開設

1982年 | 移転前の鳥居



1986年 | 新生駒トンネル貫通



同年10月に長田駅～生駒駅を結ぶ東大阪線が開通。

1987年 | 第1回ふるさとふれあいまつり開催



現在のいこまどんどこまつりの前身。今も生駒市の夏の風物詩として市民に親しまれています。

1991年 |
奈良先端科学技術大学院大学開学



学生の受け入れは1993年10月から。

1997年 | 第二阪奈有料道路開通



2001年 | 市制30周年



21世紀の幕開けとともに迎えた市制30周年。様々な催しが行われました。
写真はロボットフェスタの様子。

2010年 | 平城遷都1300年記念事業
「いこま国際音楽祭」開催



平成3年

1991

'92

'93

'94

'95

'96

'97

'98

'99

'00

平成13年

2001

'02

'03

'04

'05

'06

'07

'08

'09

'10

- ◆ 生駒山麓公園開園
- ◆ 奈良先端科学技術大学院大学開学
- ◆ 清掃センター、清掃リレーセンター開設
- ◆ 市制20周年

- ◆ セラビーいこま（健康センター・生駒メディカルセンター）新築移転

- ◆ 高山サイエンスタウンまちびらき、高山サイエンスプラザ開設

- ◆ 奈良先端科学技術大学院大学初めての入学式

- ◆ 鹿ノ台地区公民館図書室（現在は鹿ノ台ふれあいホール図書室）開設
- ◆ 3代目市長に中本幸一氏就任

- ◆ 高山竹林園「円楽大楽茶」始まる
- ◆ 高規格救急車を導入（救急救命士運用開始）

- ◆ 第二阪奈有料道路阪奈トンネル貫通

- ◆ 東生駒駅前風景観モニュメント完成
- ◆ 第二阪奈有料道路開通
- ◆ 生駒駅前北口第一地区市街地再開発事業（アントレいこま）が竣工

- ◆ 芸術会館美楽来開設
- ◆ 南コミュニティセンターせせらぎ（図書館南分館）開設

- ◆ デイサービスセンター寿楽・幸楽・長楽サービス開始
- ◆ 近畿大学医学部奈良病院（現在は近畿大学奈良病院）診療開始
- ◆ むかいやま公園・むかいやま公園体育施設開設

- ◆ 「いきいき生駒カウントダウン21」開催
- ◆ イメージキャラクター「たけまるくん」決定
- ◆ 戸籍の電算化がスタート

- ◆ 介護老人保健施設「やすらぎの杜 優楽」サービス開始
- ◆ RAKU-RAKUはうす開設
- ◆ 矢田丘陵遊歩道開設
- ◆ 花のまちづくりセンターふるーらむ開設
- ◆ エコパーク21開設
- ◆ 新市民憲章制定
- ◆ 市制30周年

- ◆ 北コミュニティセンター「STAはばたき（図書館北分館）開設
- ◆ 金鶏の杜倭苑開設
- ◆ 消防署南分署新築移転
- ◆ 教育支援施設開設
- ◆ 京阪奈新線東生駒トンネル貫通

- ◆ 生駒市コミュニティバス「たけまる号」運行開始
- ◆ こどもサポートセンター「ゆづ」開設
- ◆ 生駒市デジタルミュージアム・生駒フィールドミュージアム、地図情報サービス開始
- ◆ 生駒駅北口前第四地区市街地再開発事業（アコールいこま）が竣工

- ◆ 近鉄けいはんな線開業
- ◆ 4代目市長に山下真氏就任

- ◆ 市民活動推進センターららポート開設
- ◆ 男女共同参画プラザ開設

- ◆ 生駒市自治基本条例制定
- ◆ 阪神なんば線開通

- ◆ 平城遷都1300年記念事業「いこま国際音楽祭」開催
- ◆ 井出山屋内温水プール（現在は井出山屋内温水プールTACきらめぎ）開設

1993年 |
高山サイエンスタウンまちびらき



関西文化学術研究都市として、高山サイエンスタウンがまちびらき。

1997年 | 生駒駅北口第一地区
市街地再開発事業が竣工



アントレいこまがオープンしました。

2001年 | エコパーク21開設



2006年 | けいはんな線開業

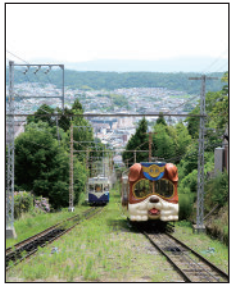


白庭台駅、学研北生駒駅、学研奈良登美ヶ丘駅を設置。大阪市営地下鉄（現在は大阪メトロ）中央線と直通に。

2014年 | ふるさとミュージアム開設

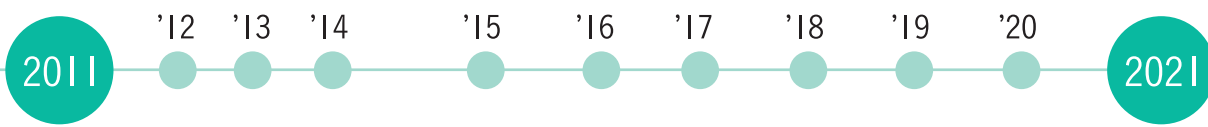


登録有形文化財：旧生駒町役場庁舎を
リニューアルした郷土資料館をオープン。



日本初のケーブルカーが100周年を
迎えました。宝山寺や山上遊園地と
生駒駅前をつないでいます。

平成23年



◆市制40周年

◆消防署北分署新築移転
◆ふるさとミュージアム開設
◆環境モデル都市に選定
◆生駒駅前北口第二地区市街地再開発事業が竣工

◆生駒北スポーツセンター（現在は生駒市体育協会高山SC）開設
◆生駒市立病院開院
◆5代目市長に小紫雅史氏就任

◆南こども園開園

◆生駒北小中学校開校
◆テレワーク&インキュベーションセンター「イコマド」開設

◆生駒ケーブル100周年
◆子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」開設

◆生駒北学校給食センター開設
◆SDGs未来都市に選定

◆小中学校全児童・生徒にタブレット端末を配備

◆福井県敦賀市と友好都市、兵庫県南あわじ市と観光物産交流友好都市を提携
◆市制50周年

2014年 | 生駒駅前北口第二地区
市街地再開発事業が竣工



ベルテラスいこま・生駒駅前図書室 木田
文庫がオープン。

2015年 | 生駒市立病院開院

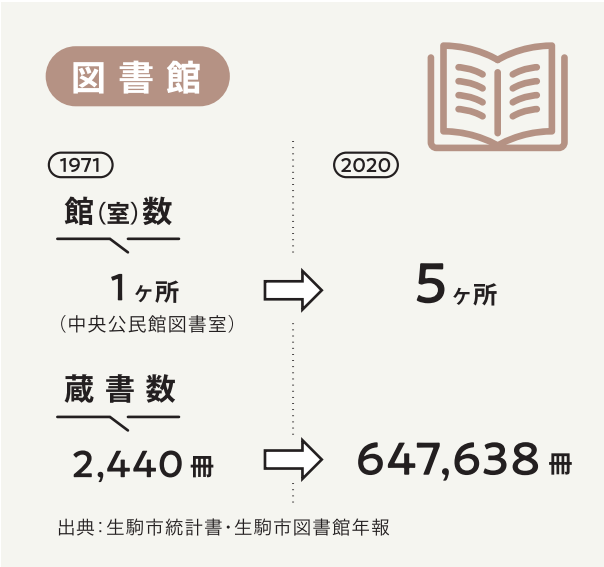
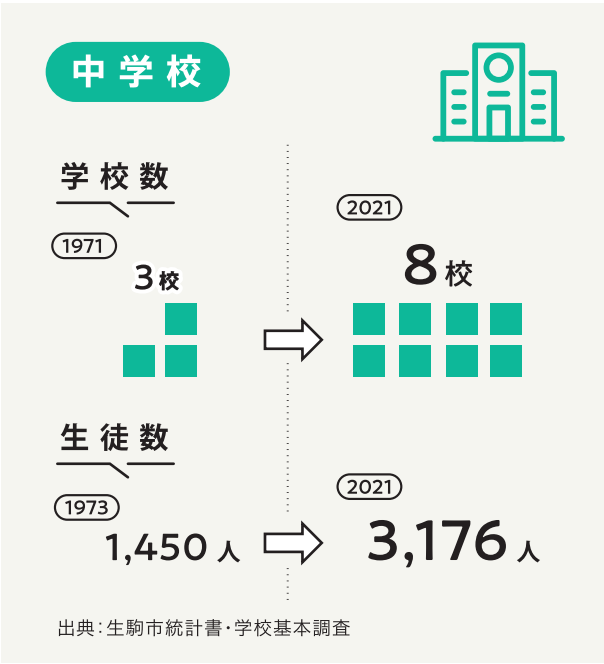
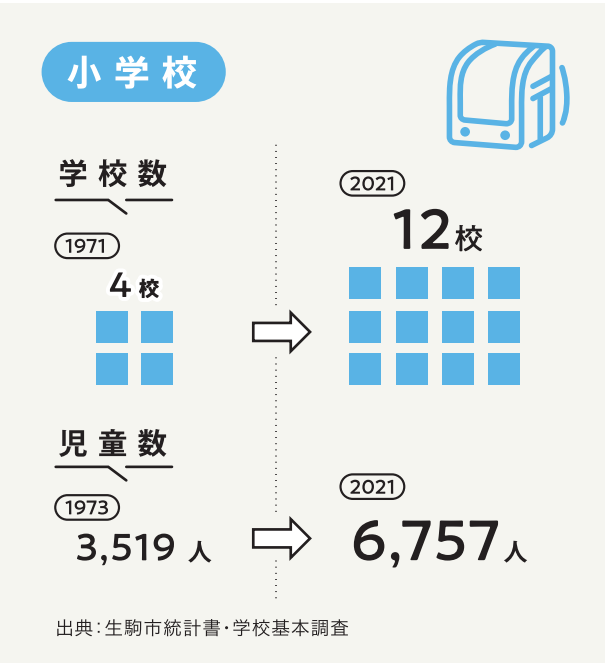
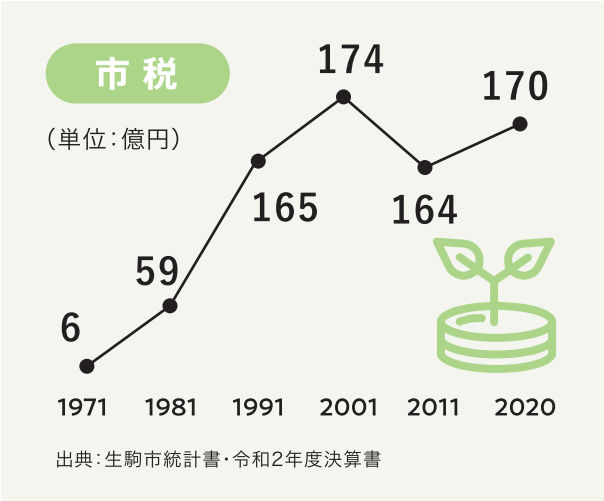
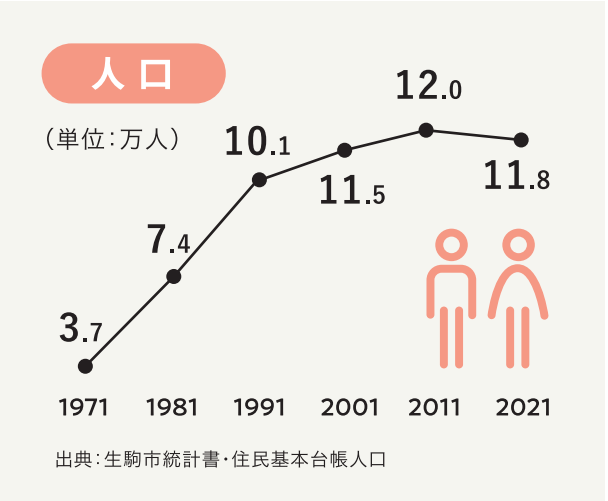


2021年 | 市制50周年



統計 から見た生駒

令和3年9月現在



自分らしく輝けるステージ・生駒

生駒市では、誰もが自分らしい生き方や暮らし方ができるよう、6つの目標を定めて、まちづくりを進めています。

1/ 福祉・安全

安全で、安心して健康に暮らせるまち

市民の生命と財産を守り、安全に暮らせるまちづくりを進めるとともに、自助・共助・公助を着実に高めていくことにより、誰もが安心して生涯にわたって健康に生活できるまちづくりを進めます。



いきいき100歳体操



防災訓練

生駒市の健康寿命

出典：奈良県サイトマップ
(65歳時の健康寿命)
平成30年(H29-R1)

女性
86.09歳
国 86.06
県 86.05

男性
83.97歳
国 83.03
県 83.49

2/ 子育て・教育

未来を担う子どもたちを育むまち

生駒の未来を担う社会の宝である子どもたちを育むため、家庭・地域・学校・行政が連携して、子育てしやすいまちづくりを進めます。



おでかけみつき



オンライン修学旅行

3/ 人権・文化

人権が尊重され、市民が輝く、文化の薫り高いまち

市民一人ひとりの人権と個性、生き方を互いに尊重し、市民が主体的にまちづくりに参画し、協働によるまちづくりを進めます。また、市民一人ひとりが生涯にわたって学び、交流し、市民力を活かした文化の創出と継承により、文化の薫り高いまちづくりを進めます。



多様性を認め合う社会に



0歳から楽しめる
ファミリーコンサート

4/ 住環境・インフラ

人と自然が共生する、住みやすく活動しやすいまち

恵まれた住環境を将来にわたって適切に保持するため、人と自然が共生し、環境負荷の少ない暮らしや事業活動が送れるまちづくりを進めます。また、多様な生き方や暮らし方を支える都市機能が充実したまちづくりを進めます。



緑豊かな住環境



コミュニティバス
「たけまる号」

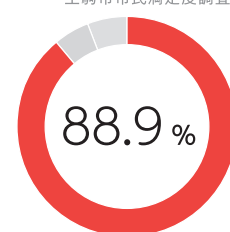
5/ 地域活力

地域の資源と知恵を活かし、魅力と活力あふれるまち

大都市近郊にあり、学研都市に位置付けられているという本市の立地を活かしながら、市内の経済活動の活性化が図られ、歴史文化資源や自然的資源、人的資源などまちのポテンシャルを活かした独自の都市ブランドを構築し、市内外にまちの魅力を発信することで、活力あふれるまちづくりを進めます。

市内への定住意向

出典：令和2年度
生駒市市民満足度調査



市外へ移住する意向 5.3%
どちらともいえない 5.8%



市民自らまちの魅力を発信する
PRチーム「いこまち宣伝部」の皆さん

6/ 行財政

持続可能な行財政運営を進めるまち

限られた経営資源を有効に活用して、社会環境の変化に伴って多様化・複雑化する社会ニーズに対応するとともに、世代間の負担の公平性にも考慮しつつ、可能な限り次世代に負担を残すことのない、将来にわたって持続可能な行財政運営を進めます。

著名人からのお祝い



©京都大学iPS細胞研究所

京都大学iPS細胞研究所所長・教授

山中 伸弥さん

市制施行50周年、おめでとうございます。
私は1999年から約5年間、奈良先端科学技術大学院大学で若い同僚とともにiPS細胞の開発を目指した研究を行っていました。研究者として大きなターニングポイントとなる時期を過ごした生駒市は思い出深い土地です。生駒市が益々ご発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

1962年大阪府生まれ。神戸大学医学部を卒業。大阪市立大学大学院医学研究科修了後、米国グラッドストーン研究所に留学。奈良先端科学技術大学院大学教授、京都大学再生医科学研究所教授などを経て、2010年より京都大学iPS細胞研究所所長。2012年にノーベル生理学・医学賞受賞。2020年より公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団理事長兼務。

お笑い芸人

宮川大助・花子さん



1979年11月にコンビを結成。夫婦漫才の第一人者として活躍され、上方漫才大賞の受賞をはじめ、多くの賞を受賞。2017年には紫綬褒章を受章。その他にも、2013年には生駒市ふるさと広報大使に就任。2016年4月1日からは、生涯学習施設の名誉館長に就任。

生駒市に住んで20年以上になりますが、日々豊かな自然に囲まれ、毎日朝陽を見ることで大きな力をもらっています。四季の移ろいなど、自然の様々な側面を感じることができています。

生駒山にも多くの思い出があります。喧嘩した時は展望台まで行って、夜景を見ていました。夫婦一緒に大阪側を見下ろして「お笑いで街に明かりを灯したい」と心に誓った思い出の場所ですね。

人が温かいことも魅力です。住み始めて何年かして南地区の運動会に参加しました。当初は参加者が少なかったのですが、どんどん盛り上がっていったら、3,000人が参加するまでになりました。思い返すと、運動会が地域とつながり始めたきっかけだったと思います。今では、近所の方からおいしい野菜をいただいたり、娘は料理を教えてもらったりしています。生駒に住み、地域の人と交流することで郷土愛が生まれたと感じています。

鳥取出身と大阪出身の私たちが選んだ永住の地が生駒。

市制50周年をきっかけに、生駒市がより一層発展することを期待しています。



1963年和歌山市生まれ。京都大学理学部を卒業、同大学大学院理学研究科を修了後、米国スクリップス研究所に留学。カリフォルニア大学教授、奈良先端科学技術大学院大学教授などを経て、2021年より奈良先端科学技術大学院大学学長。

奈良先端科学技術大学院大学学長

塩崎 一裕さん

私は米国で長らく研究生生活を送ったのち、帰国して生駒市民となりました。学長を務めております奈良先端科学技術大学院大学は、生駒市に誕生してから今年でちょうど30年。さまざまな形でご支援を頂きながら、世界に誇れる研究成果と人材を輩出して参りました。市制50周年を迎えた生駒市とこれからも共に歩みを進め、未来を拓く大学を目指します。



シンクタンク・ソフィアバンク代表

藤沢 久美さん

市制50周年おめでとうございます。
私の人間としての精神性と思考の原点を育んでくれたのは、田畑から街へと進化しつつあった当時の生駒の空気と、自由と規律ある教育を施してくださった生駒保育園と生駒台小学校での学びの日々です。歳を重ねるごとに、子供達のための良き学校を作ろうと熱意を注いでくださった当時の住民の方々や先生方への感謝が深まるばかりです。半世紀を経た生駒市が、さらにどんな市へと進化していくのか、とても楽しみです。

生駒市出身。国内外の投資運用会社を経て、1995年に日本初の投資信託評価会社を起業。2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画し、現在代表。政府や自治体の審議会委員の他、Jリークの社外理事や静岡銀行などの上場企業の社外役員なども兼務。国内外・官民のリーダーを繋いで社会イノベーションを推進。



短編映画「恋文」メンバー

俳優

加藤 雅也さん(写真中央)

市制50周年おめでとうございます。映画では、生駒のいつもとは違った雰囲気が感じられると思います。「自分たちのまちがこんな風に…」そんな気持ちになるはずです。ぜひご覧ください。

代表作は「BROTHER」「キングダム」、奈良で撮影を行った「二階堂家物語」など多数。近年、奈良を舞台にした映像制作に力を入れ、企画・原案から携わった作品は「決着」に次いで「恋文」が二作目となる。生駒市制50周年に合わせて、写真展を開催中(10月22日～11月30日)。

俳優

深町 友里恵さん(写真左)

撮影で参道を歩いて、生駒の雰囲気の良いさを感じました。あたたかい気持ちになれる映画だと思うので、いろんな人に観ていただきたいです。生駒にもまた来ます！

代表作は「プリナズ・オブ・ゴーストランド」「無賴」など多数。CMや舞台でも幅広く活躍中。特技のウクレレ演奏でステージに立ったことも。

映画監督

上本 聡さん(写真右)

撮影で感じたのは、風景の良さや人の温かさ。加藤さんにおすすめされ、撮影場所を決めるにあたり街を歩きました。そのとき「ここで撮りたい」と思いました。素敵な雰囲気の映画です。ぜひお楽しみに。

昨年監督した映画「決着」に続く、加藤さん主演、奈良県で撮影する短編企画第2弾が本作。今回も企画・監督・脚本・編集を務める。その他、欧米の国際映画祭出品作品などにもプロデューサーとして多数参加している。

代表作である「桜が咲く頃 交わした約束は。」(2018年7月公開)は、2019年8月のマドリッド国際映画祭 短編外国語映画作品部門 最優秀賞を受賞。短編映画「Smile」(2021年公開予定)は、ニース国際映画祭でベストフィルム(映画祭最高賞)にノミネートされるなど、世界各国で活躍。

映像監督

空下 慎さん

市制施行50周年おめでとうございます。私はまだ生駒市に来て3年ほどですが穏やかで過ごしやすく、素敵な街だなと感じています。若輩者ではありますが、私も生駒市民の一人として市に貢献できるようこれからも世界で活躍出来ればと思います。



落語家

桂 文福さん



和歌山県出身。落語を始めて今年で49年。師匠は五代目桂文枝。生駒市内でもさまざまな寄席に参加する他、アマチュア落語の指導などにもあたる。長男も「桂鹿えもん」として活躍中。絶賛配信中のYouTube「桂文福のためき小屋から福もろ亭」で配信した動画は、100本を超える。

市制50周年を迎える「生駒市」とかけまして、私が生まれた紀州の「備長炭」とときます。その心は、どちらも「すみよい」でしょう。

生駒市制50周年おめでとうございます。私も高校を卒業して和歌山から出てきて50年。その約半分を生駒で暮らしています。生駒は、聖天さんがあったり、かきもち・茶釜があったりと歴史がある一方で、先端などの最先端のものもあるまち。また、都会へのアクセスがよいのはもちろん、都会のように発達した駅周辺がある一方で、少し行けば田園風景も楽しめます。散歩をよくするのですが、公園も多くて、住んでいてとても落ち着くまちですね。

最後に、「生駒市長」とかけまして、「礼儀正しくする」とときます。その心は、どちらも「しせいがすばらしい」でしょう。



お笑い芸人

ニッポンの社長

ケツさんは生駒市出身。コントを軸に漫才も行う。2020年・2021年のキングオブコントに2年連続決勝進出。2020年5位・2021年4位。M-1グランプリでも、3度準決勝に進出。最近では、全国ネットのテレビ番組にも数多く出演するなど、活躍中。現在、本市生涯学習施設とともに、イベント情報や生駒の魅力「ニッポンの社長のいいこ生駒好きやねん!」として毎月YouTubeで配信中。

ケツさん(写真右)
20年以上過ごした、生駒。自然も残っているのに、大阪や奈良へのアクセスも良くて、好きなまちです。子どもの頃に公園などで遊んだ思い出は今も強く残っています。そんな好きなまちで、現在毎月ロケをして動画を配信する仕事ができうれしいです。動画のエンディング曲として「ラブラブ生駒」という歌も制作。耳になじむことを意識し作りました。一人でも多くの人に聞いてもらえるととてもうれしいです！

辻さん(写真左)
生駒には、生涯学習施設と大助・花子師匠の自宅に行っただけですが、本当にのどかで住んでみたいなあ、と思ったまちでした。落ち着きそうですね。施設の手入れが行き届いていたり、人が優しくったりもすごいです。生駒に来ると相方がのびのびもしていますし、やっぱりいいまちなんだと思います(笑)



FM802ラジオDJ

大抜 卓人さん

Franklin Peiece University マスコミュニケーション学部ラジオ学科を卒業。卒業後1年間テレビ番組製作会社に勤務。帰国後デザイン会社の営業勤務。その後オープンしたばかりのUniversal Studios Japanの専属MCとなり、翌年2001年にFM802の番組リポーターとしてデビュー。FM802のDJ、MC、テレビの司会者、声優、クラブDJとして幅広く活躍している。

ミュージシャンが創作活動のタイミングで故郷に帰るという話をよく聞きます。僕にとって生駒はクリエイティブの源。豊かな自然とアップデートしていく町並み。いつ帰っても変わらない良さと刺激が共存。市制50周年おめでとうございます。この街の包容力でたくさんの人を笑顔にしてください。そしていつかは奈良出身のバンドを集めてIKOMA ROCK FESをやりたいです(笑)

お笑い芸人・ラフ次元

梅村 賢太郎さん



帰国子女で英語が堪能な梅村さんの経歴を生かしたネタなどが人気。生駒市内の塾で講師として8年ほど働いていた経歴もある。本市でも英語教室などのイベントを開く。奈良テレビ放送「ゆとりキッ」で、週1コメンテーターも務める。個人会社「梅村コンツェルン」の起業家オンラインサロン「うめむら村」の運営など多岐にわたり活躍中。

年長兄のときから25歳頃まで、生駒に住んでいました。自然が豊かで静かなのに大阪に近い…。平和で優しい雰囲気がただよっていて大好きなまちです。最後に家族と住みたいとも思っています。中でも一番好きなのは、生駒山から見る夜景。今でも毎年見るほどです。これまでたくさんの方の力で良いまちになってきたと思いますし、これからもさらに良いまちになっていくまちだと思います。自分も市が盛り上がるように何かお手伝いできればと思っています！



©Wリーグ/三菱電機

Wリーグの三菱電機コアラーズに所属するバスケットボール選手。ポジションはセンターで背番号は15。大阪桐蔭高校を卒業後、現在のチームに入団。2019年には、「3×3」の日本代表に選出され、アジア大会で銅メダルを獲得。同年に開かれた「U23ワールドカップ」では金メダルに輝いた。東京2020オリンピックでは、攻守にわたる活躍で、強豪アメリカチームを破るなど好成績を収めた。2021年10月FIBA女子アジアカップでも代表に選出され、優勝。



©2021 DRAGON GATE

プロレスラー、DRAGON GATE所属。2000年にセカンド土井のリングネームでデビューし、2005年に本名に変更。ドラゴンゲートのシングル、タッグの主要4タイトルをすべて獲得。均整の取れた筋肉とスピーディーな技、そして関西弁を駆使したしゃべりのうまさで常にトップの人気を誇る。



©KBT

プロバスケットボールリーグ B.LEAGUE所属。川崎ブレブサンダースヘッドコーチ。生駒市出身、洛南高校、青山学院大学を経て、川崎ブレブサンダース前身の東芝ブレブサンダースに加入。2011年引退後、東芝ブレブサンダースのアシスタントコーチに就任。2014年から2016年は男子バスケットボール日本代表のアシスタントコーチも経験し、2019-20シーズンより現職。「伝統と変革」をスローガンに2021年にはチームを7年ぶり4回目の天皇杯優勝に導いた。



©2014VANRAURE HACHINOHE

生駒市出身。奈良育英高校、大阪経済大学を経て、2019年に奈良クラブへ加入。2020年シーズンはリーグ戦15試合全てに出場し5得点。2021年よりJ3ヴァンラーレ八戸に完全移籍。

バスケットボール選手・
東京オリンピック日本代表

西岡 里紗さん

市制50周年おめでとうございます！

生駒市は自然豊かで人も温かくてとても大好きな場所です。生駒市には元々祖母の家があり、現在は私の実家もあります。学生時代、部活が終わりいつも癒されに帰る場所が生駒市でした。近所の皆様は当然のことながら、市民の皆様はとても暖かく、何かあれば手を差し伸べてくれたりと、人情味がある街だと思っています。また、私がバスケットボール選手と知ると、街ぐるみで私を応援をしてくれる温かみのある街で大好きです！毎年シーズンオフに帰るのが楽しみです！東京オリンピックやアジアカップ、Wリーグで少しでも良い結果を残し、たくさんの方々にバスケットボールの魅力を広められるよう日々挑戦し続けます！

これからも生駒市の皆様に応援していただけるよう、また、生駒の子どもたちが夢を持つきっかけになるような素敵なバスケットボール選手を目指し頑張りますので、引き続きの応援をよろしくお願いします！

プロレスラー

土井 成樹さん

生駒市制50周年、おめでとうございます。自然豊かで住みやすい生駒市、生駒山上遊園地やケーブルカー等、昔から多くの思い出があります。自然だけではなく、レインボーラムネや高山かきもちなど、おいしいものがたくさんあることも生駒の魅力ですね。中学時代は野球部に所属しており、厳しい練習に明け暮れていました。野球部で学んだ礼儀、上下関係、根性など、今のプロレスラー生活に活かされていると感じています。いつの日か生駒市で大会を開催し、多くの皆様に観戦していただける日を楽しみにしています。

バスケットボール

川崎ブレブサンダースヘッドコーチ

佐藤 賢次さん

今でも生駒の地から応援し支えてくれる家族、生駒に帰るとすぐに集まってくれる友人達、幼い頃に心を育ててくれた生駒の自然。いつまでも私の大切な宝物です。「バスケで日本を元気にしたい！」生駒で育んだ魂に誇りをもち、感謝の気持ちを忘れず、これからも夢に挑戦し続けます。生駒市制50周年、おめでとうございます。ますますのご発展をお祈り申し上げます。

サッカー選手・ヴァンラーレ八戸

島田 拓海さん

J3ヴァンラーレ八戸の島田拓海です。生駒市市制50周年おめでとうございます。プロサッカー選手として、生駒市をもっと盛り上げていけるように、また、生駒市の皆様から応援していただけるような存在になれるように活躍したいと思います。

プロ野球選手・埼玉西武ライオンズ

宮川 哲さん



©SEIBU Lions

生駒市出身。中学校時代は生駒ボーイズでプレー。その後、東海大学山形高校、上武大学、東芝を経て、2019年埼玉西武ライオンズからドラフト1位で指名を受け入団。2020年は49試合に登板し2勝1敗13ホールドという成績を残す。

この度は生駒市市制50周年、おめでとうございます。中学3年生まで生駒市に住んでいましたが、僕が野球を始めた地でもありますし、一番の故郷だと思っています。これからも、生駒市で育ったことを誇りに、埼玉西武ライオンズで頑張っていきたいと思ひます。

野球・横浜DeNAベイスターズ
ベースボールスクールコーチ

秦 裕二さん

この度は市制施行50周年、おめでとうございます。自然豊かな町で育った私は、野山を駆け巡り石を遠くまで投げて遊ぶ腕白な幼少期を過ごしました。今でも当時の記憶が蘇ります。その環境が野球選手になる基礎となった事は間違いありません。今後、自身が培った経験をもとに、地元の野球発展のために貢献できればと思っています。

ハンドボール

三重バイオレットアイリス監督

櫛田 亮介さん

父親の仕事の関係で小学4年生から高校卒業するまで、生駒市に住んでいました。高校生の時からハンドボールを始めて現在に至ります。生駒を離れて25年以上になりますが、今でも小学生、中学生時代の友人たちとは家族ぐるみの付き合いを続けており、家族で生駒を訪れる機会をいつも楽しみにしています。生駒市の益々のご発展をお祈り申し上げます。

サッカー選手・奈良クラブ

平松 遼太郎さん

奈良クラブの平松遼太郎です。市制施行50周年おめでとうございます。私は生駒市に生まれ、市制50周年の記念すべき本年、10年振りに地元に戻ってこれたのも何か運命に感じながら、サッカー選手として日々頑張っています。生駒市はのどかで安心して暮らせる素晴らしい街、故郷だと改めて思っております。生駒市の益々の発展を願い、これからもサッカーを通じて盛り上げ、発信していきます。

アーチェリー選手・

東京オリンピック日本代表

古川 高晴さん

近畿大学職員。高校からアーチェリーを始め、アテネオリンピックから東京オリンピックまで5大会連続でオリンピック出場を果たす。ロンドンオリンピックでは個人銀メダルを獲得。東京オリンピックでも個人・団体ともに銅メダルを獲得。その他にも国内外の大会で活躍を続ける。

7・8月に開催された東京2020オリンピックのアーチェリー競技に出場しました。練習場が生駒市にあることがご縁で、大会前に訪問させていただき、市長に激励していただきました。大会では市長はじめ、市民の皆さんからの声援のおかげで活躍できたと思っています。本当にありがとうございました。3年後のパリオリンピックでは、「金メダル獲得(古川さん)」「メダル獲得(山内さん)」を目指してがんばりますので引き続きご声援をお願いします。また今後、生駒の子どもたちにアーチェリー教室を開くことも検討中です。その際はぜひ参加してくださいね！



小説家

森見 登美彦さん

小説家の森見登美彦です。市制50周年、おめでとうございます。小学4年生の頃に大阪から引っ越してきて、10代を生駒市で過ごしました。生駒市は静かで穏やかな町ですが、少年時代の私にとっては想像力を刺激される町でもありました。生駒山を見上げて過ごした思春期は私の原点といえるでしょう。今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



書家

龍和さん

山紫水明のふるさと。生駒市で生まれ育った私にとって、ふるさとは生駒であると思っています。幼い日、両親に手を引かれて見た生駒山。青春時代、友人と共に見た生駒山。これからもずっと生駒市民を見守っていただけることでしょう。市制50周年おめでとうございます。ますますのご発展をお祈り申し上げます。



ミュージシャン

スピラ・スピカ

寺西 裕二さん (写真右)

市制50周年おめでとうございます！自然豊かでとても穏やかな生駒での生活は、僕の音楽に影響を与えてくれていて、上京した今でも恋しくなります。これからも僕の故郷、生駒の発展を応援しております！そして、僕も音楽で貢献していけるよう頑張っていこうと思います。

ますださん (写真左)

生駒市で生まれ育ち、青春時代のたくさんの時間をこの町で過ごしてきました。駅から歩いてすぐにあるライブハウス「生駒RHEB GATE」は僕が初めてライブをした場所で、僕の今はここから始まっています。現在は生駒を離れ、東京で生活していますが、この場所で過ごした思い出にいつも元気をもらっています。市制50周年おめでとうございます！

アーチェリー選手・

東京オリンピック日本代表

山内 梓さん

近畿大学職員。今年3月に同大学を卒業。東京オリンピックがオリンピック初出場だったにも関わらず、予選では自己ベストを更新し7位に。日本人トップの成績となり、男女混合への出場権も獲得した。目標としていたメダル獲得とはならなかったが、団体で5位入賞を果たすなど、今後の活躍にも期待が集まる。



チェロ奏者

伊東 裕さん

チェロ奏者。日本音楽コンクールチェロ部門第1位受賞。第67回ARDミュンヘン国際音楽コンクールピアノ三重奏部門第1位受賞。東京藝術大学、同大学院を卒業。ザルツブルク・モーツァルテウム大学を経て現在ミュンヘン音楽・演劇大学に在学中。ピアノ三重奏「奏トリオ」の一員として、世界・全国で活躍中。2021年11月には、市制50周年に合わせた「祝典コンサート」を本市で開く。



ミュージシャン

寿君

関西エリアから全国区へと確実に現場を盛り上げる鉄板ボーイ寿君！中毒性の高いハスキーな歌声と多くの共感者を生み出すストリートを反映したリリックを武器にヒット曲を量産。登録者数8万人に迫る寿君YouTubeチャンネルでもオリジナル曲からアレンジカバーまで総再生数4000万回超え！

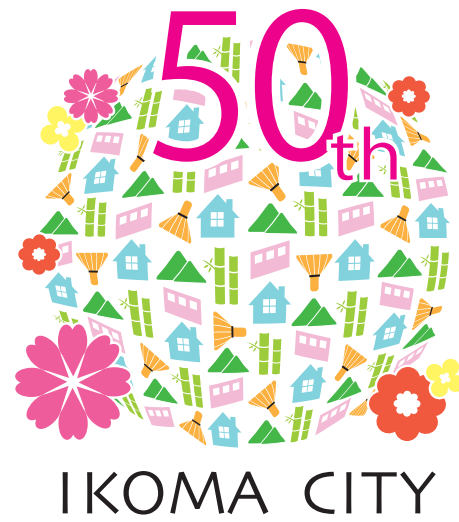
市制50周年おめでとうございます！子どもの頃遊んでいた宝山寺の境内や学生の頃よく食べていた駅前のジャッポのたこやきなど今でも懐かしく思い出されます。「SPECIAL THANX」という曲では「生駒の懐かしの高架下」と歌詞にも入れさせていただきました。そんな生駒市に生まれたことを誇りに音楽活動ががんばっていきたいと思います！

市制50周年記念ロゴマーク

市制50周年を市内外に広くPRし、より多くの市民や事業者の皆さまと一体感をもって盛り上げていくため、記念ロゴマークを公募しました。

全国各地から453作品の応募があった中から、生駒市の次の50年を担う約7,000人の小学生の投票により選ばれました。

全体を構成する柄は、茶釜や竹、ケーブルカー、生駒山など市の特色を表しており、50周年とすぐに分かるよう大きな数字を使っています。また、花を散りばめたことで親しみやすさも表現されています。



ロゴマークが市内を彩っています



ミニのぼり



ラッピングポスト

(市内郵便局・奈良クラブとの共同設置)



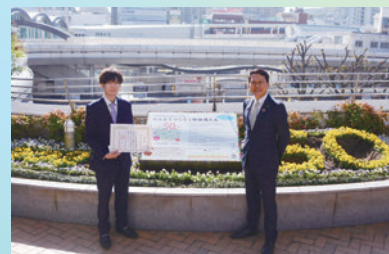
生駒駅改札口前
天井装飾



缶バッジ



市制50周年を盛り上げるために
結成された「いこま50's楽団」が
「ららら♪マルシェ」で演奏を披露



ロゴマークをデザインした
中嶋郁透さんと駅前花だんのお披露目会

市章

生駒の「生」の字を上下に広げて図案化したもので、大地にしっかりと足をふんばり、未来に向かって力強く羽ばたく生駒市の姿を象徴しています。



市民憲章

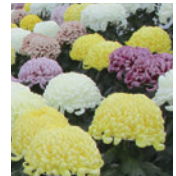
生駒山の豊かな緑に育まれ、自然と歴史と文化が調和しながら発展しつづける生駒市。わたしたちは、ここに住むことへの愛着と誇りをもって、みんなの夢がかなうまちをきずくために、市民憲章を定めます。

- 1 自然を愛し、人と自然が共生する美しいまちをつくりましょう。
- 1 お互いに助けあい、安心して暮らせるやさしいまちをつくりましょう。
- 1 人権を尊重し、心のかよいあうあたたかいまちをつくりましょう。
- 1 スポーツに親しみ、健康で活力のあるまちをつくりましょう。
- 1 知恵を出しあい、世界にはばたく文化のまちをつくりましょう。

市の花「菊」

(昭和50年5月選定)

市の花「菊」は、昭和50年に市民から応募のあったものの中から決めたものです。これは、緑化意識を高め、豊かな情操をはぐくみ、美しいまちづくりを目指すということから、だれにでも栽培しやすく、上品で美しい花ということで選ばれました。



市の木「榎」

(昭和48年12月選定)

市の木「榎」は、昭和48年の市制施行2周年の記念として、市民から応募のあったものの中から決めたものです。生駒で森の木といえば、「榎」といわれるほど多くの榎の木が茂っています。この榎の木は、年中緑の葉を茂らせ、常に栄える象徴として昔から尊ばれ親しまれているもので、万葉の歌にも詠まれているなど、力強く発展、成長するシンボルとしてふさわしいことから選ばれました。



公式キャラクター

たけまるくん

高山の職人が、竹のように強い子になるように気持ちをこめて丁寧に作ったのが、たけまるくん。いつも元気で風邪ひとつひかないので、ちまたでは「たけまるくんに触れると元気になり、良いことがおこる」といわれています。フットワークが軽く、どこへでも喜んで出かけます。今の目標は全国に友達をつくって、生駒の良さをたくさん伝えることです。

